

2026年3月30日  
南海電気鉄道株式会社

## フェリー事業からの撤退について

南海電気鉄道株式会社（社長：岡嶋 信行、以下「南海電鉄」）はこのたび、子会社である南海フェリー株式会社（社長：小林 敏二、以下「南海フェリー」）の営むフェリー事業（和歌山～徳島間 61km）から撤退することといたしました。

なお、事業撤退時期は2028年3月末を目途としておりますが、船舶・設備等の老朽化や従業員の確保など安全運航に支障が生じる恐れのある場合には、撤退時期を早める場合がありますことを、併せてご承知おきください。

南海フェリーは1975年に設立し、以後50年間にわたり和歌山県と徳島県を結ぶ重要な交通手段として、両県民の皆さまをはじめとする多くのお客さまにご愛顧いただきまいりました。

しかしながら、1998年の明石海峡大橋開業に伴う神戸淡路鳴門自動車道開通以降、本州四国連絡の主要ルートが陸路へと移行したことや、人口減少や少子高齢化に伴う利用者の減少、また2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大も収入の大幅な減少に追い打ちをかけることとなりました。

このような厳しい状況下においても、和歌山・徳島両県両市をはじめ各方面の皆さまからの支援を受けながら、各種キャンペーンの実施やお得なきっぷの発売等、さまざまな収入回復策を講じてまいりました。また、航路を維持し公共交通機関としての社会的責任を果たすため、徹底した経営合理化やコスト削減にも努めてまいりましたが、特に近年の燃料費の高騰は過去に類を見ない水準となっており、抜本的な収支改善には至っておりません。更に、コロナ禍により受けた経営への打撃は深刻で、多額の債務を抱え、2021年度以降は債務超過の状態が続いております。

加えて、現在運航している「フェリーかつらぎ」については、就航から26年の経過により老朽化が著しく、船体更新の時期を迎えております。2019年には「フェリーあい」を新造更新し、2隻体制での運航を維持してまいりましたが、「かつらぎ」を更新するには財務的に非常に厳しい状態であると言わざるを得ません。「あい」1隻での運航継続も検討いたしましたでしたが、効率的な運航及び経営は不可能との判断に至り、このたびのフェリー事業撤退を決定した次第でございます。

皆さまには、長年にわたり南海フェリーをご愛顧、ご支援いただきましたことにつきまして、厚く御礼申し上げます。

以上

(別紙) 南海フェリーの概要について

- (1) 社長 小林 敏二
- (2) 所在地 和歌山市湊2835番1
- (3) 設立 1975年8月20日
- (4) 資本金 1億円
- (5) 従業員 81名(2025年12月末現在)
- (6) 使用船舶 フェリーあい 2825総トン、フェリーかつらぎ 2620総トン
- (7) 子会社 南海フェリー商事株式会社
- (8) 近年の営業成績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
営業収益 (百万円)	2,055	1,251	1,441	1,871	2,109	2,130
営業損益 (百万円)	78	▲532	▲462	1	25	▲9
旅客数 (千人)	414	195	214	308	356	357
乗用車台数 (千台)	106	53	57	81	90	90
貨物台数 (千台)	36	31	31	29	27	25

※旅客数…徒歩乗船旅客、車両の運転手・同乗者の合計

(参考) 南海フェリーの歴史

- ・1975年 南海フェリー株式会社設立
- ・1999年 フェリー航路を和歌山～徳島航路に移設  
新造船「フェリーかつらぎ」就航 (現在運行中)
- ・2002年 高速船事業廃止
- ・2007年 3隻から2隻体制へ減船
- ・2011年 南海電鉄との連絡割引乗車船券「好きっぷ2000」発売開始
- ・2019年 新造船「あい」就航 (現在運行中)